

大正五～九年、多くの方々が本堂建立に向けて寄付をして下さいました。『旭川別院百年史』をもとに、当時飢饉で苦しい生活を強いられていたにもかかわらず、本堂建立にご尽力下さった方々のお名前を紹介したいと思います。(五回目)

※今回だけでは書ききれませんので、数回に分けて記載します。

片山コト	亀谷九郎吉	久世安次郎	小林子之七
勝宮小平	河合庄太郎	久保茂平	小林藤作
加藤和九	河内竹松	窪太三郎	小林徳松
加藤喜八	川岸テイ	久保田長松	小林要吉
加藤弘次	川口久四郎	窪田恒作	小松原治作
加藤澤次郎	川口銀次郎	窪田竹次郎	小柳覚一
加藤宗次郎	川口桑次郎	窪田吉松	小山伊吉
加藤ふく	川口春蔵	栗沢チヨ	近藤惣次郎
加藤松太郎	川崎弥八郎	黒川春次郎	才田利兵衛
金田竜太	川島貞治	黒坂喜郎	斉藤甚之助
金田次郎	河原市蔵	黒田幸次郎	斉藤清太郎
金森栄次郎	川辺モエ	黒田要次郎	斉藤新太郎
金山孫七	川見喜代司	黒田与作	斉藤勇作
蟹田幸次郎	川村伝右工門	桑原政蔵	境善蔵
蟹田松次郎	菊谷イト	小泉又三郎	堺栄次郎
金子善吉	岸与三松	小出惣太郎	酒井岩松
金子徳市	北浦甚作	小出角平	酒井弥三郎
金津次三郎	北川力三郎	河野政吉	坂上文作
金津タケ	北辻文吉	小坂三三郎	坂口幸次郎
金津太三郎	北村サワ	小阪清間	坂田豊次郎
壁地長太郎	北村清之助	越川朝人	坂本九丞
上口亀吉	北本治郎松	越川百一郎	坂本長太郎
紙谷伊次郎	北本ノブ	五島政義	桜井サタ
紙谷イト	寄藤総五郎	越村カネ	桜田伝平
紙谷太一郎	木村千代吉	小城ナミ	左近嘉蔵
紙谷与吉	木元外次郎	小須田虎蔵	笹岡永五郎
亀井高次	木元与三松	後藤善之助	笹岡福松
亀石チセ	暁谷政吉	小西太助	佐々木栄次郎
亀田吉次郎	日下部静也	小林久太郎	

(敬称略)

別院しらべ隊

調査報告書No.10 形となる願い

「別院しらべ隊」によせて

旭川別院本堂等改修委員会
委員長 大谷 博

一昨年5月に院議会にて本堂等改修委員会が承認されて以来、本堂等改修専門委員会設置、募財委員会発足など、院議会をはじめ列座及び関係各位のご協力を得ながらご輪番のご指導の下に準備を進めて参りました。

この度、ご本山の宗務総長より特別懇志募財の承認をいただき、いよいよこれから工事業者入札・募財受付など、改修に向けての事業が本格的に動き出すことに成ります。本堂等改修委員一同、身の引き締まる思いで決意を新たにしているところです。

ご門徒の皆様には、時期的に厳しい状況下ではありますが何卒意の有るところをお汲み取りいただきまして、我々の拠り所である聞法道場の改修という一大事業に是非ともご協力賜りますようこの場をお借りいたしまして伏してお願い申し上げます。

この報告書も10号になりますが、単なる報告に止まらず、今迄の謎を推理し解明するなど実に興味深い内容を含み、毎号を待ち望む思いは私だけでは無い筈です。本事業の意義を理解し推進する上で、この紙面が果たす役割は決して小さいものではないと私は信じて止みません。

最後になりましたが、職務の傍ら編集に取り組む調査員の方々には何時も感服して居り、今後も充実した紙面をご期待致しますと共に心からお礼申し上げます。

旭川別院・宗祖親鸞聖人750回御遠忌記念

本堂等改修工事施工

期間：2010年秋～2012年秋

次号もお楽しみに(*^_^*)

調査員：草部・垣原・横井よ・長尾・高橋
2010年10月1日作成

旭川別院御遷佛法要

9月に封書にてご案内しました通り、2010年11月5日(金)に本堂等改修工事が始まる最初の行事と致しまして御遷佛法要が勤まります。ここでは法要の意味を考えてみましょう。

* 御戸開(巻障子開閉)

報恩講の厳修が終わったことを告げる意味で巻障子が閉じられます。そして、次の御遷佛法要をお迎えする意味で閉じられた巻障子を開きます。

* 勤行(正信偈 同朋奉讃)

御本尊の御移徙(うつす)のお勤めと共に、この後に行われる修復工事にあたり、改めてご信心の喜びを受けつつ、長く親しんできた本堂でみなさんが最も親しんでいる「正信偈」をお勤めします。

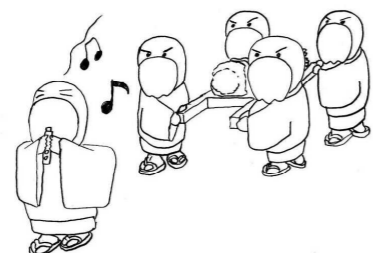
* 園児合唱

御本尊がお移りになるに当たって、お泊まり会や、幼稚園報恩講でお参りしてきた園児たちが小さな手を合わせて歌います。

* 御本尊 移動

御本尊とは「仏さまと人類にとって根本に尊いことを立ち尽くして教えてください」仏さまのことで、御名を阿弥陀如来といいます。

立ち尽くして教えてくださいですから、本来その座を動かすものではありません。しかし、この度90年ぶりの本堂改修のため御移徙いたします。



* 御本尊 安置

御移徙した御本尊をご安置する場所は、仮本堂とはいえ私達の唯一の聞法道場となります。

* 奏楽

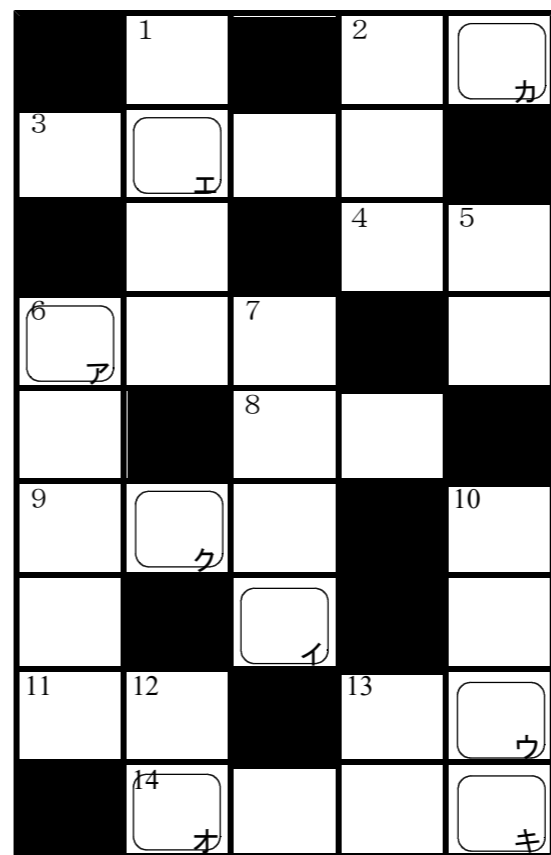
法要で色々な楽器で奏でる雅楽は、浄土に「万種の伎楽あり。その楽の声、清揚哀亮にして、微妙和雅なり」『仏説無量寿経』という法音(声)をこの世に表現したものです。

* 仏説阿弥陀経

『仏説阿弥陀経』は、浄土三部経の一つで『無問自説経』ともいいます。弟子の問いに釈尊が答えるのではなく、仏弟子たちに念仏往生について自ら説かれた経典です。

ちょうさん予備校

今回はクロスワードだよ!

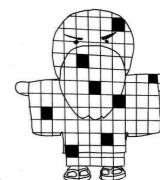


《タテ》

- 1、中心に居られる仏の世界(浄土)観を表したもの
- 2、別院しらべ隊のキャラクター○○○さん
- 5、飛鳥時代の屋根は茅葺きや○○葺きが主流でした
- 6、私たちは○○○○○大谷派の門徒です
- 7、北海道には、旭川を含め6カ所あります
- 10、綽空、善信と名告った時代もありました
- 12、花まつりなどで、可愛い姿を見せてくれます
- 13、雨の日には必要です

《ヨコ》

- 2、私は知識、仏は○○
- 3、浄土真宗の中興の祖
- 4、ヒヒーン!!と鳴きます
- 6、今回はNo.10です。別院○○○隊
- 8、供物は1つではなく○○で使います
- 9、部屋の境の戸、障子、ふすまの下にあります
- 11、自分の家のこと
- 13、旭川別院の大門には見事な○○じし木鼻がほどこされています
- 14、一般によく知られているのは恩徳讃です



ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク

答えは・・・別院で公開中

ご門徒さんからの声

毎日お寺の朝のお参りに来られてるTさんから教えていただいた事ですが、本堂の柱関係は、当時の雨粉の森へ行って、太っとい根っこを辿って大きな太い木を探しだし、その木を切り出してロープや馬(当時は馬そりが往来してたみたいです)で別院まで引っ張ってきたそうです。

また、当時お寺で報恩講等の行事の際には、ご婦人方がお寺の廊下でアメやきなこモチ等の販売が行われて賑わっていたそうです。

現代のように、重機がない時代に大変なご苦労と思います。大勢で一つの事を成し遂げることよっての、達成感という連帯感。他人事とせず自分の事として関わりを持つことで得る共なる喜び、まことに先人達はウンチクをこねるのではなく、行動で私達を御教化くださる事でありました。